

2025 年度 玉川学園高等部入学試験問題

国 語

(注意事項)

- (1) 試験時間は 50 分間、配点は 100 点満点です。
- (2) 問題用紙は冊子 1 部、解答用紙は 1 枚です。
- (3) 解答用紙の受験番号欄には受験番号のみを記入して下さい。
- (4) 解答は、すべて別紙の解答用紙の所定欄に記入して下さい。
- (5) 解答用紙の＊欄には、何も記入してはいけません。
- (6) 試験開始の合図があるまでは、問題用紙を開かないで下さい。
- (7) 印刷が不明瞭な場合をのぞいては、質問を受け付けません。

【一】 次の問いに答えなさい。

問一、次のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 良いタイグウを受ける。 2 体を大きくソる。 3 ブンケンを調べる。 4 ヒトガキで見えない。 5 草木をシメらす。

問二、次の――線部の漢字の読みを、ひらがなで答えなさい。

- 1 功勞賞を賜る。 2 懇切で丁寧な対応。 3 先輩に憧れる。 4 便宜を図る。 5 曇天を見上げる。

問三、次の文について、それぞれの問いに答えなさい。

先生がクラスで「今年一番楽しかったことを作文に書きましょう。」と言ったので、私は今年の夏休みに家族で海水浴に行ったことが思いだされた。

- 1 ――線部 a 「楽しかつ」の品詞と活用形を答えなさい。

- 2 ――線部 b 「言った」を敬語にしなさい。

- 3 ――線部 c 「れ」と文法的に同じ働き・意味の「れ」を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 上司から書類を渡られた。 イ 遠い昔がしのばれた。
ウ 友達にホームランを打たれた。 エ 先生が席に着席された。

- 4 ――線部 「夏休みに」の被修飾語となる文節を一つ抜き出して答えなさい。

【二】次の文章【一】、【二】は熊代亨『人間はどこまで家畜か——現代人の精神構造』の一部である。文章【一】は本文のテーマである「自己家畜化」についての定義や問題提起、文章【二】はテーマについての筆者の主張が記されている。これらを読んで、後の問いに答えなさい。なお設問の都合上、本文を一部改変している。

【一】

「人間が家畜化していく、家畜のように飼^ない馴^ならされていく」と聞いて、皆さんはどんなイメージを持ちますか？

宇宙人が地球を侵略し、^{*}プロイラーのように人間をおいしく食べやすい生き物に改良し、ケージのなかで効率的に飼育する……そんなのはまっぴらだと思っ^なた方もいらっ^なしやるでしょう。あるいは映画『マトリックス』で描かれたような、コンピュータの養分として飼^なわれながら夢を見ている人間のイメージにもポジティブな印象を持てません。

ですが、¹人間の家畜化が宇宙人やコンピュータによらず、人間自身がつくりあげた文明、ひいては安全で便利な暮らしを実現させた制度や技術や思想とおして促されるとしたらどうでしょう？

最近の進化生物学のトピックスに「自己家畜化」というものがあります。これは、生物が進化の過程でより群れやすく・より協力しやすく・より人懐^{なつ}こくなるような性質に変わっていくことを指します。たとえば人間の居住地の近くで暮らしていたオオカミやヤマネコのうち、人間を怖れず一緒に暮らし、そうして生き残った子孫がイヌやネコへと進化したのは自己家畜化のわかりやすい例です。 a 的に家畜にするのでなくみずから家畜的に変わったので「自己家畜化」、というわけです。

そして進化生物学は、私たち人間自身に起こった自己家畜化も論じています。考古学、生物学、心理学などから多角的に検討すると、この自己家畜化が私たちの先祖にも起こってきたというのです。

進化生物学の研究者たちが述べるように、自己家畜化は人間が文明社会を築くうえで非常に重要だったはず^なです。というのも、高密度な集団をつくっていただけること・そのなかで共通のルールを守って暮らせること・攻撃性や不安を抑えていられることは動物として凄い性質で、この性質がなければ交易や都市文明などは成立し^なうがなかっただろうからです。

では、こうした人間の自己家畜化がもっと進み、文明社会も進歩していけば万事OKでしょうか？ 第一に懸念されるのは人間の自由です。より安全で能率的な暮らしが実現するとしても、その結果、文明社会に人間が飼^ない馴^ならされるばかりになって構わないのか、警戒されてしかるべきでしょう。第二に——精神科医としての私は特にこちらを懸念するのですが——その文明社会が人間にもっと多くのルールを守らせ、もっと攻撃性や不安を抑えさせ、

b 「より家畜人たれ」と求め続けると、その求めについていけず^なに不^な適応を起^なこす人が増えるのではないでしょう^なか。

こうして私たちがますます²真・家畜人たるよう促され、医療や福祉に覆われ、なんなら遺伝子編集をとおして自分たち自身をも改変した未来はユートピアと言つて良いのでしょうか。

ある意味、そうでしょう。ひとりひとりがより健康になり、より社会に貢献しやすく、より環境に適応しやすくなるだけではありません。性差、容姿の美醜、発達特性の差異まで遺伝子編集をとおして埋められるようになれば、先天性にもとづいた不平等の問題は軽減するでしょう。あわせて家庭による経済的・文化的格差もなくなります。

また、脅威を増すパンデミックに備えるべく、誰もがより優れた免疫力を獲得できる遺伝子編集が開発されたとして、それを否定する道理はあるでしょうか。免疫力を獲得する遺伝子編集はコロナ禍以後の功利主義に十分かなったものですが、それでいて個人の自由を制限するものでもありません。むしろ未来のパンデミックに際して個人の自由が制限される度合いを軽減させてくれる可能性もあります。

それでも遺伝子編集には技術的にも倫理的にも課題が残っています。性急な適用は好ましくなく、技術的課題を解決したとしても疑問は残ります。思想に引つ張られるまま、文化や環境の要請する“文化的な自己家畜化”のままに遺伝子編集を行い、ついに生物学的な自己家畜化をそれに追いつかせた先に、果てはあるのでしょうか。そうして遺伝子編集を適用する範囲と程度が広がっていった先の私たちは、もはや人間ではない何者か、文化や環境に対して従順でしかなく、終わることのない^{*}エンハンスメントや遺伝子編集を受け入れるしかない何者かになってしまつてしまつてはいませんか。

A

^{*}第三章でも登場したフーコーは、専制君主や国家からのトップダウン的な命令やマネジメントでなく、もつとボトムアップ的で行政的な、庶民や有権者ひとりひとりの願いが寄り集まつて人間の行動や生き方のマネジメントが起こつていく権力のはたらきかたを生政治と呼びました。生政治は、専制君主が反逆者を処刑するような権力や、国家が死刑を言いわたすような権力ではありません。むしろ人を生かすもの、モニタリングやマネジメントをとおして生産性や安全性を向上させるものです。旧来の権力に比べるとわかりにくいかもしれませんが、人に影響を与え、人をコントロールするもの全般を権力とみなすなら、確かに生政治も権力の一部とみなせます。

フーコーは、その生政治に加え、たとえば学校や家庭で生活習慣や学習習慣などを身に付ける規律の両方をあわせ、「生権力」と呼びました。

この生権力という視点で振り返ると、専制君主の時代に比べて自由にみえる現代の社会や環境が、縦横に張り巡らされたさまざまな生権力の網の目のなかにあつて、まるで透明な檻の動物園のようであること、その誰が責任者なのかもはっきりしない権力に誰も^{さい}が曝され、逃れようがないことに気付かされます。

本書のこれまでの話もそうです。フーコーのいう生権力は、精神医療にも、管理教育にも、出生前から臨終までの健康マネジメントにも、^{*}ホワイトな職場のウェルビーイングにも、^{*}IoT化していく社会全体にも当てはまります。もちろんそれらを推進している人々は優しい顔つきをし、統計的エビデンスに基づいた治療や施策を心がけ、私たちの長寿や利便性や生産性に貢献しているでしょう。だからこそ、それらは凶暴な専制君主とは異なった現代ならではの権力であり、私たちを“文化的な自己家畜化”へと引つ張っていく強い力、思想に根ざした正当性を伴いながら暮らしに浸透し尽くしているために認識すら難しく、抵抗もしづらい力です。

そうした新しいタイプの権力の網の目のなかで、文化や環境はますます社会契約や資本主義や個人主義に妥当するかたちへ、より良く生きたいニーズに応えるかたちへ変わっていくでしょう。それに引きずられるように精神医療が発達し、エンハンスメントをとおして人間の性質がアレンジされ、最終的には遺伝子編集をとおして生物学的な自己家畜化が“文化的な自己家畜化”に追いつくまで人間が改造されるかもしれません。それらを悪いことだと言うのは難しいことです。

それでも私の目には、^c生権力のおかげで今日の快適で安全な生活が成立し、たとえば東京のような街も、それなしには成立不可能なのですから。それでも私の目には、その行き着く先がディストピア的にうつります。たとえば中世の人々がタイムマシンに乗って現代に移住してきたとして、私たちの暮らしをどう見るでしょうか。おそらく中世の人々は平均寿命や緻密な都市に驚くだけでなく、守らなければならないルールの多さ、社会適応するためのハードルの高さに当惑するでしょう。

技術や思想や制度の先端にいる人々にとって、進歩は必ず心地良いもの、^dに向かうもの、自分たちが社会を善導するものと感じられるかもしれませんが。真・家畜人たれという要請もさほど気にならないでしょう。ですが進歩に対して受動的で、ついていくことが難しく、“文化的な自己家畜化”に疎外されてもいる人々の^{*}ブルースにも耳を傾け、その見地から進歩を眺め直す姿勢も必要ではないでしょうか。社会は、イノベーターや^{*}アーリーアダプターだけのものではありません。

加速する進歩と生権力の網の目。私たちはその渦中にあつて、より一層“文化的な自己家畜化”に馴染むよう促され、そこから逃れることは困難です。フーコーに倣^{なま}って現代社会の権力を見つめ直し、批判的な気持ちになったとしても、結局、生権力の網の目の恩恵を自分自身も受けていること、それなしには今日の生活が成立困難であることは認めなければなりません。

だからといって、進歩や生権力の網の目を留保なく肯定して良いかと言ったら、それもNoだと私は答えたいです。それらに自分たちが依存していることを承知しつつ、それらが大量の人がついていけなくなるスピードで進展してしまう可能性、誰がどこでどんな風に合意形成しているのかもわからないまま不可逆に進展していく可能性には警戒感を持つておくべきでしょう。

たとえば文化や環境の変化をますます加速させ、遺伝子編集で人間の行動形質すら変えてしまうことには私は恐ろしさを禁じえません。一層恐ろしいのは、そうした人間の生物学的な改変プロセスに中央集権国家の意図が色濃く反映されたり、資本主義的なニーズによる「市場の、市場による、市場のための改変」

の色彩が強まったりすることです。

遺伝子編集に限らず、もし、諸進歩が誰のための・何のためのものかが議論もされないまま、たくさんの人々がついていけないスピードで進んでいくとしたら？ それは人間全員のための進歩とは言えません。そのような進歩は独善的なイノベーターのもの、それか中央集権国家や資本主義のものではないでしょうか。

また、多様な人間が多様なまま存在して構わない余地が文化的にも生物学的にも少なくなっていく可能性にも警戒が必要です。やれダイバーシティが実現した、やれ誰もが活躍できる社会が到来したといっても、それが花屋の店先に並ぶ色とりどりの花のような、野花や規格外の花を排除し、商品として選別された花ばかりになってしまうものでは名ばかりでしかありません。

花屋の店先のようになった未来の社会について、遺伝子編集に対する^{*}フランシス・フクヤマの危惧に基づいて考えると、革命家のように抵抗したり思想家のようにイノベータータイプなビジョンを思い描いたりする個人や、才能や野心にあふれた個人も少なくなってしまう、奇抜なアイデアや驚くようなイノベーションが減ってしまうよう想像されます。そのような社会では、e イーロン・マスクのような異才はなかなか生まれてこないばかりでなく、生まれてきたとしても治療や支援が必要とみなされるばかりで、その異才を発揮する機会を得られないのではないのでしょうか。

私は、^B「何事も過ぎたるは猶及ばざるが如し」という慣用句が好きです。イノベーターの独走には注意が必要ですが、だからといってイノベーターがいなくなった社会は停滞するでしょう。のみならず、進歩に依存しながらも⁴進歩に警戒の目を差し向ける感覚も必要ではないかと思えます。

(注) *ブロイラー……………肥育して適当に脂肪を蓄積させた肉用の若鳥。

*エンハンスメント……………機能や性能を高め強化すること。

*第三章でも登場したフーコー……………第三章では、フランスの思想家ミシェル・フーコーの著書『監獄の誕生』を紹介している。

*ホワイトな職場のウェルビーイング……………労働環境が良く、満足感が高い状況。

*IoT化……………いろいろなものをインターネットでつなぐこと。

*ブルース……………音楽ジャンルの一つ。特に悲しみや苦悩の感情が表されたもの。

*アーリーアダプター……………流行や新しい技術・製品を早く採用する人々。

*フランシス・フクヤマ……………アメリカの政治経済学者。『人間の終わり』という著書で科学技術の危険性を論じている。

問一、文章〔一〕の——線部1「人間の家畜化が宇宙人やコンピュータによらず、人間自身がつくりあげた文明、ひいては安全で便利な暮らしを実現させた制度や技術や思想をとおして促される」とはどういうことか。それに当てはまるものとしてふさわしいものを次の選択肢の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人々が集団の中にある共通のルールを守れるようになること。 イ 人々が絶えず努力をし続けられるようになること。
ウ 人々が年功序列を守り年長者へ敬意を払えるようになること。 エ 人々が好戦性や不安感を抑制できるようになること。
オ 人々が多様性を認め他者を尊重できるようにすること。

問二、文章〔一〕の〔a〕に当てはまる二字の熟語として最もふさわしいものを次の選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自然 イ 本格 ウ 人為 エ 自動 オ 主体

問三、文章〔一〕の中で筆者は本文のテーマである「自己家畜化」が進むことで、人間の自由が制限されることを危惧している。その他にも筆者が懸念している事柄を〔一〕の文中から挙げ、二〇字以上三〇字以内で答えなさい。

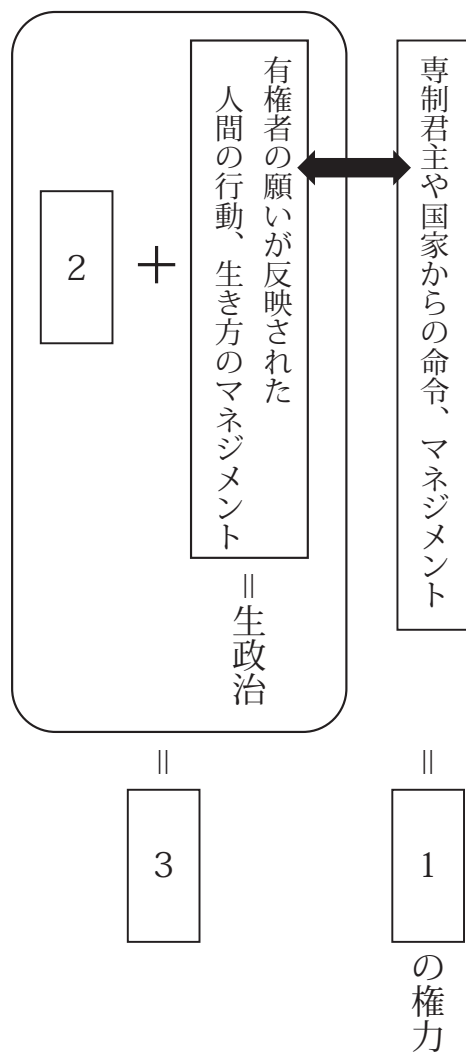
問四、文章〔一〕の〔b〕、文章〔二〕の〔c〕・〔e〕に当てはまる語の組み合わせとして最もふさわしいものを次の選択肢の中から選び、記号で答えなさい。

ア b いわば	c ところが	e たとえば	イ b もちろん	c ところが	e すなわち
ウ b いわば	c なぜなら	e たとえば	エ b もちろん	c なぜなら	e たとえば
オ b いわば	c ところが	e すなわち			

問五、文章〔二〕の——線部2「真・家畜人」について筆者は、文章〔一〕と〔二〕の間の章で「社会契約や資本主義や個人主義といった思想どおりに生きることでは豊かになったが、それらの思想が人間の動物としての行動形質を超えて飼ひ馴らされている私たち」と述べている。この「真・家畜人」と同じ性質を持つと筆者が表現している存在は何か。文章〔二〕の文中にある次の語句の中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間ではない何者か イ 凶暴な専制君主 ウ イノベーター エ 革命家 オ 思想家

問六、左は本文中Aの要点をまとめたものである。図式の中の 1 3 に当てはまる語としてふさわしいものを次の【選択肢】の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。



【選択肢】

ア 家畜化 イ 文明 ウ 生権力 エ 未来 オ 規律 カ 治療や施策 キ 旧来

問七、文章 二 の——線部3で、「生権力」のことを「認識すら難しく、抵抗もしづらい力」と述べているが、それはなぜか。次の選択肢の中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 私たちの周りにはいつの間にか生権力の網が張り巡らされているが、それを守るように法で義務化されているから。
- イ 私たちの社会には生権力が増え続けているが、いずれ遺伝子編集によってそれを受け入れられることになるから。
- ウ 私たちは生権力の恩恵を受けて生活しており、私たちの生活にはそれがあって当たり前になっているから。
- エ 私たちは自ら生権力を作り上げており、何者かに強要されているという感覚を持っていないから。
- オ 私たちの生活は生権力の網に守られていることによって、生産性や安産性を保証されているから。

問八、文章 二 の d に当てはまる語として最もふさわしいものを文章 二 から抜き出して答えなさい。

問九、文章〔二〕の——線部4「進歩に警戒の目を差し向ける感覚も必要」と筆者が主張する理由は何か。その説明となる次の一文の空欄〔1〕〔3〕に当てはまる語を、文章〔二〕からそれぞれ抜き出して答えなさい。

〔1〕 的な自己家畜化に馴染めない大勢の人がいる中で、進歩は大勢の人がついていけない〔2〕で進んでいく可能性や、責任者や目的がわからない状態で〔3〕に進展していく可能性があるから。

問十、文章〔二〕の——線部B「何事も過ぎたるは猶及ばざるが如し」は「やりすぎることはやり足りないことと同様によくない」という意味である。あなたがこれまで経験したこの慣用句に当てはまる事象を、百字以上二百字以内で述べなさい。

【三】次の会話文は、上田秋成「ぶつぽうそう仏法僧」（『雨月物語』新編日本古典文学全集）を教材とした授業内での教員と生徒のやりとりである。（１）～（３）は「ぶつぽうそう仏法僧」の本文からの抜粋である。これを読んで、後の問いに答えなさい。なお設問の都合上、一部表記を改変した部分がある。

教員 …この話の舞台は、江戸時代の徳川泰平の世、霊場とされる高野山です。高野山は、弘法大師（空海）が真言宗の総本山金剛峰寺を建立して以来、日本第一の霊場とされてきました。登場人物は、父夢然と息子作之治さくのじ。この二人が旅に出て、高野山に到着し、お参りを終えたところから物語は始まります。二人は、険しい道のりを歩き、お堂をめぐり尽くすと、日も傾いてきました。その後どうなるのでしょうか。

（１）
①「ここに宿からん」といへど、ふつに答ふるものなし。そこを行く人に ②所の掟をきけば、「寺院僧坊に便なき人は、麓にくだりて明かすべし。此の山すべて旅人に一夜をかす事なし」とかたる。いかがはせん。さすがに老の身の險しき山路を来しがうへに、事のよしを聞きて大きに心倦つかれぬ。作之治がいふ。「日もくれ、足も痛みて、いかがしてあまたのみちをくだらん。弱き身は草に臥すとも厭ひなし。只病み給はん事の悲しさよ。」夢然云ふ。
③「旅はかかるをこそあはれともいふなれ。今夜脚をやぶり、倦つかれて山をくだるともおのが古郷にもあらず。翌のみち又はかりがたし。此の山は扶桑第一の霊場、大師の広徳かたるに尽きず。殊にも来りて ④通夜し奉り、後世の事たのみ聞ゆべきに、幸の時なれば、ふせう霊廟に ⑤夜もすがら法施したてまつるべし」とて、杉の下道の小暗きを行くゆく、霊廟の前なる灯籠堂の簀子に上りて、雨具うち敷き座をまうけて、閑に念仏しつつも、夜の更けゆくを*わびてぞある。

教員 …ここで「ぶつぽうそう仏法僧」という鳥の鳴き声が聞こえてきます。「ぶつぽうそう仏法僧」とは、仏教における最も重要な三つの宝「ぶつ仏」・「ぽう法」・「そう僧」を指しますが、これと同じ「ぶつ仏法」という鳴き声を持つたに見られない霊鳥が鳴いたのです。次の場面は、父夢然がその鳴き声を聞いて感動し、創作意欲がわくところから始まります。

(2)

「こよひの奇妙、既に一鳥声あり。我ここにありて心なからんや」とて、平生のたのしみとする^⑤俳諧風の十七言を、しばしうちかたふいていひ出でける。

I 鳥の音も秘密の山の茂みかな

旅^{たび}硯^{すずり}とり出でて御灯の光りに書きつけ、^⑥今一声もがなと耳をかたふくるに、思^{おも}ひがけ^ずも遠く寺院の方より、^a前を追ふ声のいかめしく聞こえて、
やや近づき来たり。

教員 ……………線部 a 「前を追ふ声のいかめしく聞こえて、やや近づき来たり。」とありますが、これは、夢然が I を詠んだ後、貴人と家来の一行がやってきたということを示しています。その一行の数は、総勢四十名以上。驚いた父子二人は、身を伏せて一行の様子をうかがいます。一行が酒宴を開き、盛り上がっている中、もう一度、「仏法仏法」と鳴く声が聞こえてきて、夢然はここで作った I を後の (3) の場面で貴人とその一行に披露することになるのです。

生徒 A …夢然の作品が貴人のご期待に治えればいいけれど……もし、失敗したら、罰せられてしまうのでしょうか。次の展開に、はらはらしますね。ところでこの四十名以上のお供を引き連れる貴人とはいったい誰なのですか。

教員 …真夜中に高野山で酒宴を開く貴人とは……なんと、関白豊臣秀次公なのです。

生徒 B …え……。江戸時代に関白を豊臣家が務めるわけがないですよね。

教員 …その通りです。貴人の正体を知った夢然の恐怖が、次の (3) の冒頭から読み取れますね。

生徒 A … X のですね！

(3)

頭に髪あらば太るべきばかりに凄しく、肝魂も虚にかへるこちして、振ふるふ、頭陀囊より清き紙取り出でて、筆もしどろに書きつけてさし出だすを、主殿取りてたかく吟じ上ぐる。

Ⅰ 鳥の音も秘密の山の茂みかな

貴人聞かせ給ひて「口賢くもつかまつりしな。誰ぞ、此の末句をまうせ」とのたまふに、山田三十郎座をすすみて、「某つかうまつらん」とて、しばしうちかたぶきてかくなん。

Ⅱ 芥子たき明かすみじか夜の床

「いがあるべき」と紹巴に見する。「よろしくまうされたり」と公の前に出だすを見給ひて、「片羽にもあらぬは」と興じ給ひて又杯を揚げてめぐらし給ふ。

教員 …いかがでしたか。

生徒B…夢然の詠んだⅠは、貴人にどう評価されたのでしょうか。

生徒A…Ⅱとあるから、きっと悪い評価ではなさそうですね。Ⅱに対しても貴人は、……線部b「よろしく」と言っているから、ⅠもⅡも

良い評価を受けたということが分かりますね。

教員 …皆さん、Ⅰのような五・七・五と、Ⅱのような七・七を交互に読み連ねていく形式の詩歌を何というか知っていますか。これを、「連歌」と言います。

前の人の句(前句)に自分の句(付句)を付けていくので、この二句の関係性が大変重要視されました。付け方には色々作法があったようですが、

前句と付句の関わりにおいて、内容や言葉、情趣などを関連させながら変化させていくおもしろみが求められました。

生徒A…では、ⅠとⅡの関連や変化を見てみましょうよ。

生徒C…お供の山田三十郎が、夢然の詠んだⅠに付ける続きとして読んだⅡには、「芥子」という植物が出てきていますね。芥子は、真言宗の祈祷きとうの時に、邪気を払う護摩ごまを焚たくのに使われています。私は、お寺で厄除け祈願をしてもらったことがあるのですが、あの護摩を焚く煙の神秘的な香りは、今でも忘れられません。

生徒A…つまり、五感という共通点を用いて表現に関連性を持たせながら、

Z

生徒達…連歌で大事にされている、関連と変化が見事に見られますね。

教員…貴人の言葉にも……線部c『片羽にもあらぬは』と興じ給ひて」とあるように、『『つり合いが取れているなあ』と面白がりなさって』いますね。このⅠとⅡの呼応が完成した瞬間に、貴人とその一行に、修羅道しやらどうに帰る時間が訪れるのです。修羅道とは、永遠に闘争に明け暮れる世界で、現世で憎悪や嫉妬心などが強かった者たちが死後落ちるとされるところです。そして、貴人と一行の人々は、遠く大空のかたに消えていきます。

生徒B…夢然父子は、どうなったんですか。

教員…その場で気を失い倒れてしまいましたが、やがて正気に戻って、急いで下山して、京に帰り着くことができました。

生徒D…この物語におけるⅠとⅡの役割が見えてきました。

教員…^⑦では、その役割について、各自まとめてみましょう。

(注) *通夜…寺や仏堂にこもって一晩中、祈願すること。

*霊廟…弘法大師が祀まつられているお堂。

*頭陀囊…ここでは、旅をする際に首からかける袋のこと。

*末句…ここでは、前の五・七・五の句に対してつける七・七を指す。

*後世の事たのみ聞ゆ…来世の安樂を祈願する。

*わびてぞある…心細く思っていた。

*主殿…貴人（関白豊臣秀次公）の家来の一人。

*紹巴…貴人（関白豊臣秀次公）のお供の僧。

問一、——線部「思ひがけず」を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで答えなさい。

問二、——線部①・⑥のそれぞれの意味として最もふさわしいものをそれぞれの選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

①「ここに宿からん」

- | | |
|---|---------------|
| ア | こちらは宿にちがいない |
| イ | こちらに宿を借りたいのです |
| ウ | こちらに宿があるでしょう |
| エ | こちらが今日の宿でしょう |

⑥「今一声もがな」

- | | |
|---|---------------|
| ア | もう一回詠もう |
| イ | もしも一声鳴いたなら |
| ウ | もう一声聴きたいなあ |
| エ | 今のは鳴き声だったのかしら |

問三、——線部③・④の現代語訳（口語訳）として最もふさわしいものをそれぞれの選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

③「旅はかかるをこそあはれともいふなれ。」

- | | |
|---|---------------------------------|
| ア | このような予期しない事態こそかえって旅の趣というものだ。 |
| イ | こんなにも時間がかかってしまって旅は思い通りにならないものだ。 |
| ウ | 自分たちの旅がこんなにも哀れな結末を迎えるとは情けないものだ。 |
| エ | 父上の体が心配で悲しい思いがこのようにして募ってくるものだ。 |

④「夜もすがら法施したてまつるべし」

- | | |
|---|------------------------|
| ア | 一日中念仏を唱えなされたのでお休みください |
| イ | 夜になったので念仏を唱えるのをおやめください |
| ウ | 一晩中念仏をお唱え申し上げよう |
| エ | 夜が過ぎ朝が来たら念仏を唱えよう |

問四、——線部②「所の掟」とは、どのような掟なのか。掟の内容を示す連続した二文を抜き出して、一文目の初めの五字を答えなさい。

問五、――線部⑤「俳諧風の十七言」とあるが、これを芸術の域にまで高めたと評される『奥の細道』の作者の名前を答えなさい。

問六、 X にあてはまる最もふさわしい内容を選択肢から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 夢然親子はいつの間にかあの世に召されてしまった イ 貴人の身分のあまりの高さに驚いた
ウ 関白にお会いして緊張で身動きが取れなくなった エ 貴人とその一行は全員、幽霊だった

問七、 Y にあてはまる語句としてふさわしいものを、(3)の本文中から三字で抜き出して答えなさい。

問八、 Z に入る内容として最もふさわしいものを選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア I では仮想世界を視覚を主にして捉えていて、 II では触覚を主にして捉えた世界に変化しているのですね。
イ I では仮想世界を聴覚を主にして捉えていて、 II では味覚を主にして捉えた世界に変化しているのですね。
ウ I では現実世界を視覚を主にして捉えていて、 II では聴覚を主にして捉えた世界に変化しているのですね。
エ I では現実世界を聴覚を主にして捉えていて、 II では嗅覚を主にして捉えた世界に変化しているのですね。

問九 左記ア～エは、――線部⑦の課題について、生徒がⅠの役割やⅡの役割をそれぞれまとめたものである。教材と会話文の内容に合致するものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア 夢然が(2)の場面でⅠを詠んだあとに、貴人とその家来の一行がやってきている。このことから、ⅠはⅡの前句的な役割を果たすことになり、貴人とその一行を呼び寄せるきっかけとなっていると言える。

イ 貴人の家来の一人である山田三十郎がⅡを詠み、(3)の場面のⅠとⅡにおける関連と変化が成立したとたんに、貴人とその一行が修羅道に帰る時間となった。このことから、ⅠとⅡの呼応は、貴人と家来たちをもとの世界に返す役割があると言える。

ウ 夢然が(2)の場面でⅠを詠んだあとに、貴人とその家来の一行がやってきて、家来の山田三十郎がⅡを詠み、連歌が完成した。このことによつて、邪気を取り払われ、貴人一行と父子それぞれの来世の安泰が約束されたことを読者に印象付けていると言える。

エ 体調不良の父夢然は、(3)の場面でⅠを詠んで元氣を取り戻していて、Ⅱを貴人の家来が詠んだ後には、貴人たちが修羅の世界に無事に戻れている。このことから、歌を詠む行為には、詠み手の悩みを取り除く役割があると言える。